

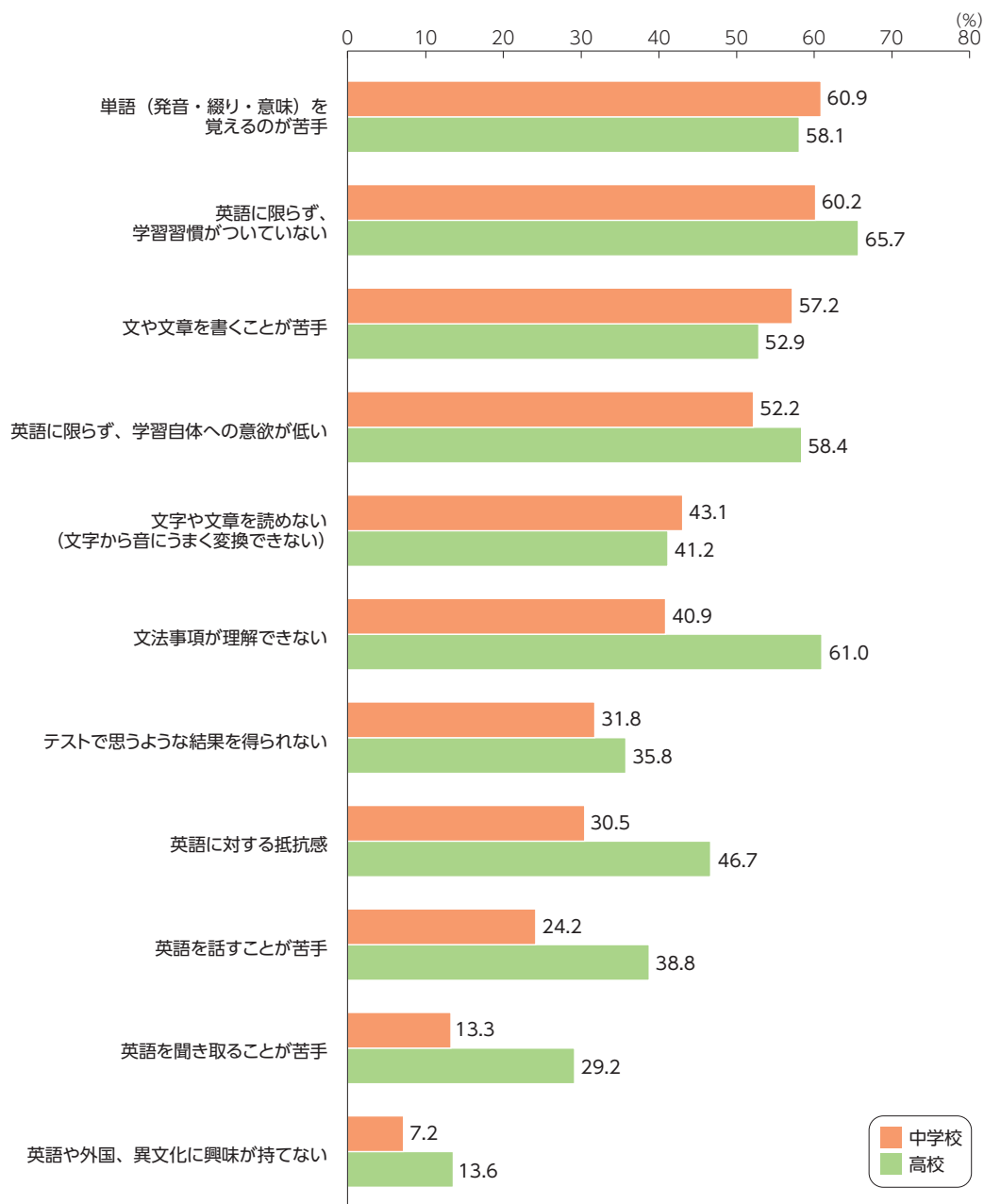
2. 指導に関する教員の意識

生徒のつまずきの原因は、「単語を覚えるのが苦手」「学習習慣がついていない」が上位。

英語に対する苦手意識やつまずきを感じている生徒はどのようなことが原因だと思うかをたずねたところ、中学校では「単語を覚えるのが苦手」「学習習慣がついていない」が、高校では、「学習習慣がついていない」「文法事項が理解できない」がそれぞれ上位だった。

Q 英語に対して苦手意識やつまずきを感じている生徒は、どのようなことが原因だと思いますか。

図2-1 生徒のつまずき



*「とてもあてはまる」の%。

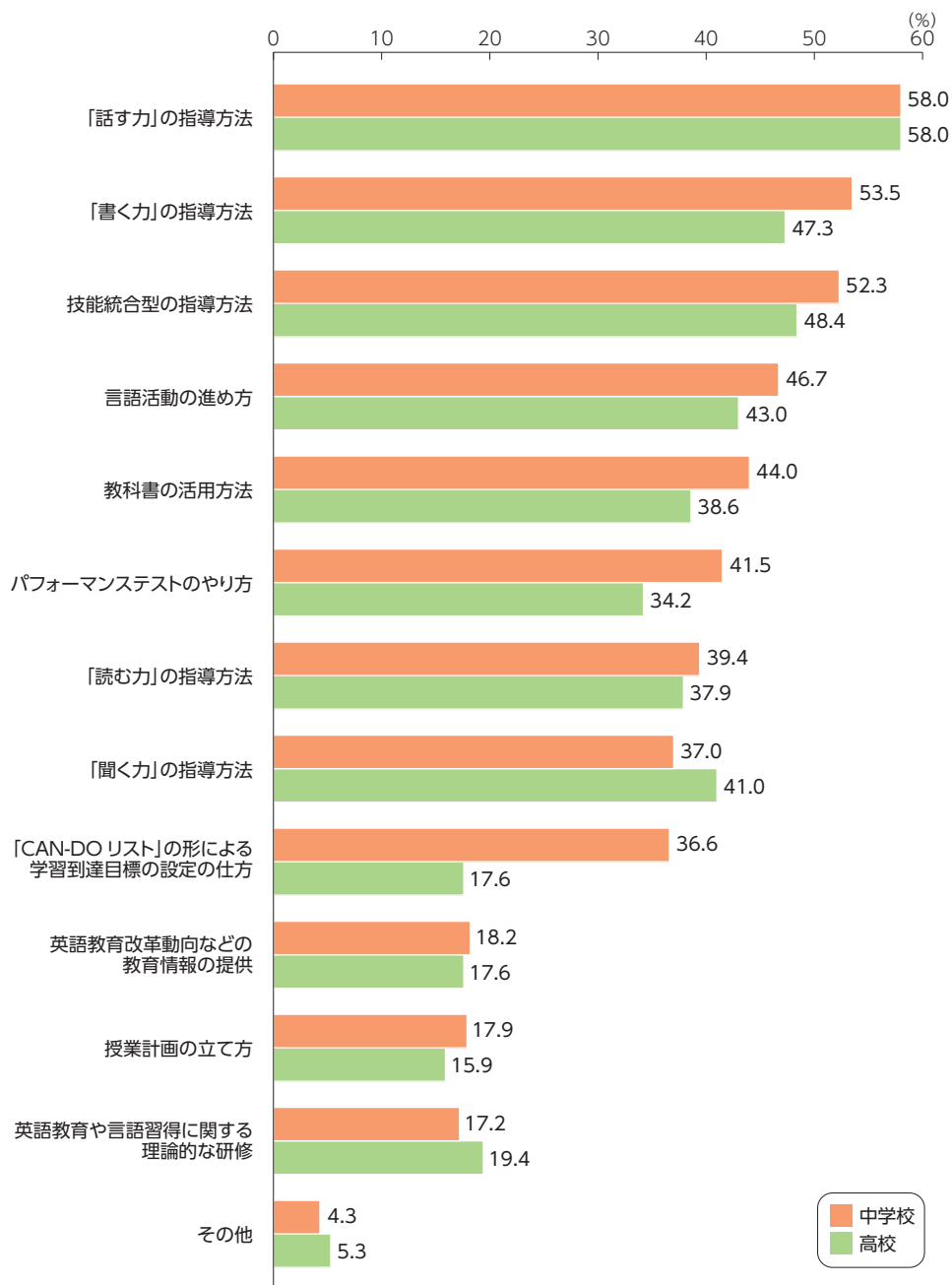
2. 指導に関する教員の意識

受ける研修は「『話す力』の指導方法」がもっとも高い。

中高ともに「話す力」「書く力」「技能統合型」の指導方法の研修を受けたいとの回答が多い。中高で比較すると、中学校では「『CAN-DO リスト』の形による学習到達目標の設定の仕方」が高校よりも約20ポイント高い。

Q どのような内容の研修を受けたいと思いますか。

図2-2 受ける研修



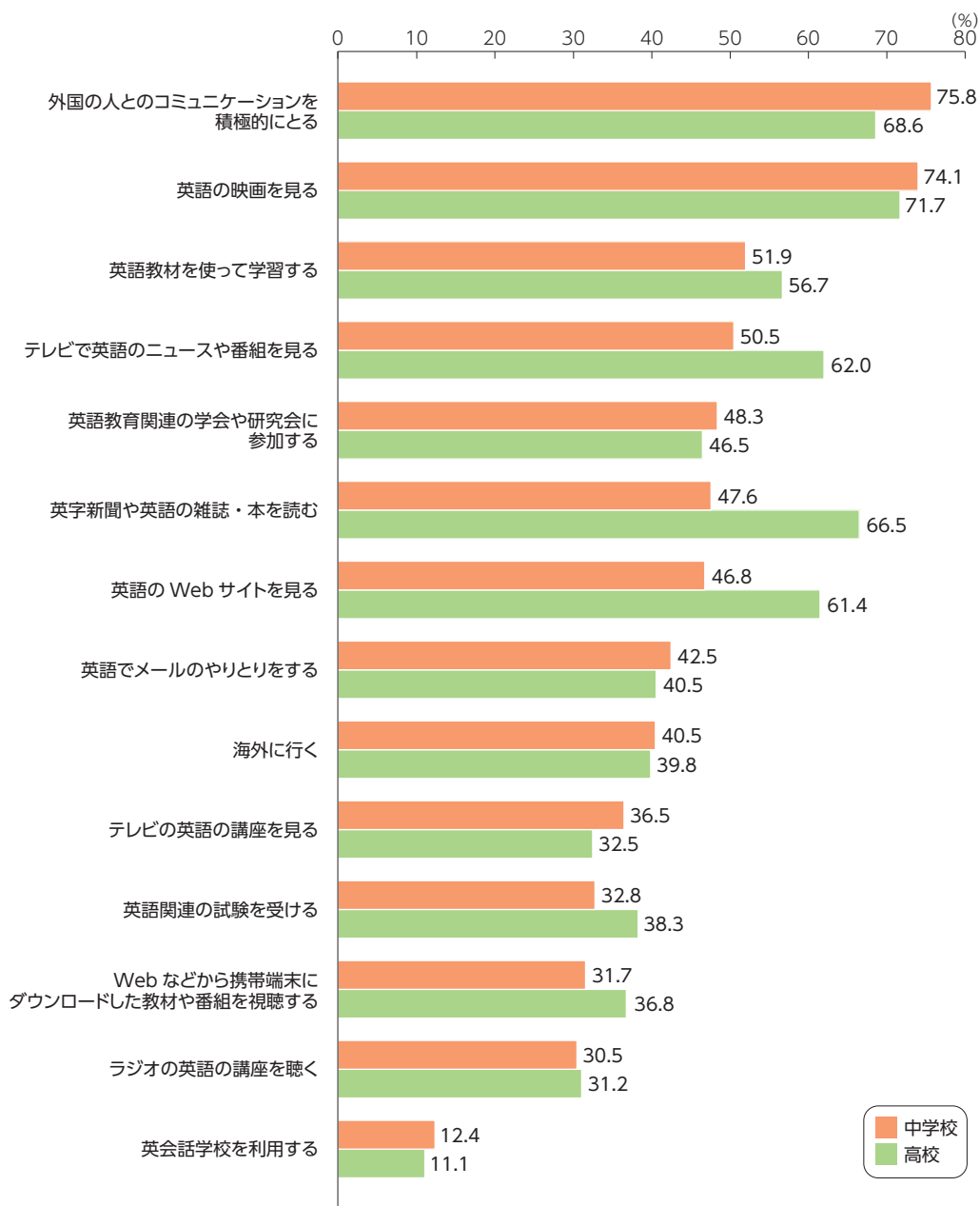
* 複数回答。

教員の自己研鑽は、「外国の人とのコミュニケーションを積極的にとる」「英語の映画を見る」が7割前後で高い。

中高ともに7割前後の教員が、自己研鑽として「外国の人とのコミュニケーションを積極的にとる」「英語の映画を見る」を行っている。高校の教員には、「英字新聞や英語の雑誌・本を読む」「テレビで英語のニュースや番組を見る」「英語のWebサイトを見る」も多い。

Q 英語力の向上または維持のために、自己研鑽として行っていることがありますか。

図2-3 自己研鑽



*「とてもそう」+「まあそう」の%。

2. 指導に関する教員の意識

授業で大切にしていることは、中学校は「楽しさ」、高校は「理解」。

英語教員が授業で大切にしていることは、中学校は「楽しさ」、高校は「理解」がもっとも高かった。順位は異なるが20項目中上位9項目は中高ですべて同じ項目だった。



生徒に対して、あなたが授業で大切にしていることをあらかず言葉として近いものを3つまで選んでください。

図2-4 授業で大切にしていること

(%)

	中学校	高校
①	楽しさ (51.9)	理解 (41.9)
②	定着 (34.5)	楽しさ (38.1)
③	理解 (31.5)	好奇心 (32.5)
④	自信 (28.6)	定着 (30.9)
⑤	好奇心 (27.1)	自信 (25.1)
⑥	協働 (18.9)	協働 (16.0)
⑦	挑戦 (16.5)	発見 (15.4)
⑧	訓練 (13.5)	挑戦 (14.1)
⑨	発見 (11.8)	訓練 (13.8)
⑩	仲間 (9.1)	納得 (13.3)
⑪	居場所 (8.0)	自律 (9.6)
⑫	納得 (7.6)	探究 (8.9)
⑬	共感 (6.3)	共感 (8.2)
⑭	自律 (5.7)	蓄積 (6.7)
⑮	驚き (5.6)	居場所 (5.8)
⑯	蓄積 (5.4)	驚き (4.7)
⑰	未来 (4.3)	未来 (3.6)
⑱	探究 (4.1)	仲間 (3.2)
⑲	創造 (3.4)	創造 (3.1)
⑳	その他 (1.6)	その他 (1.2)

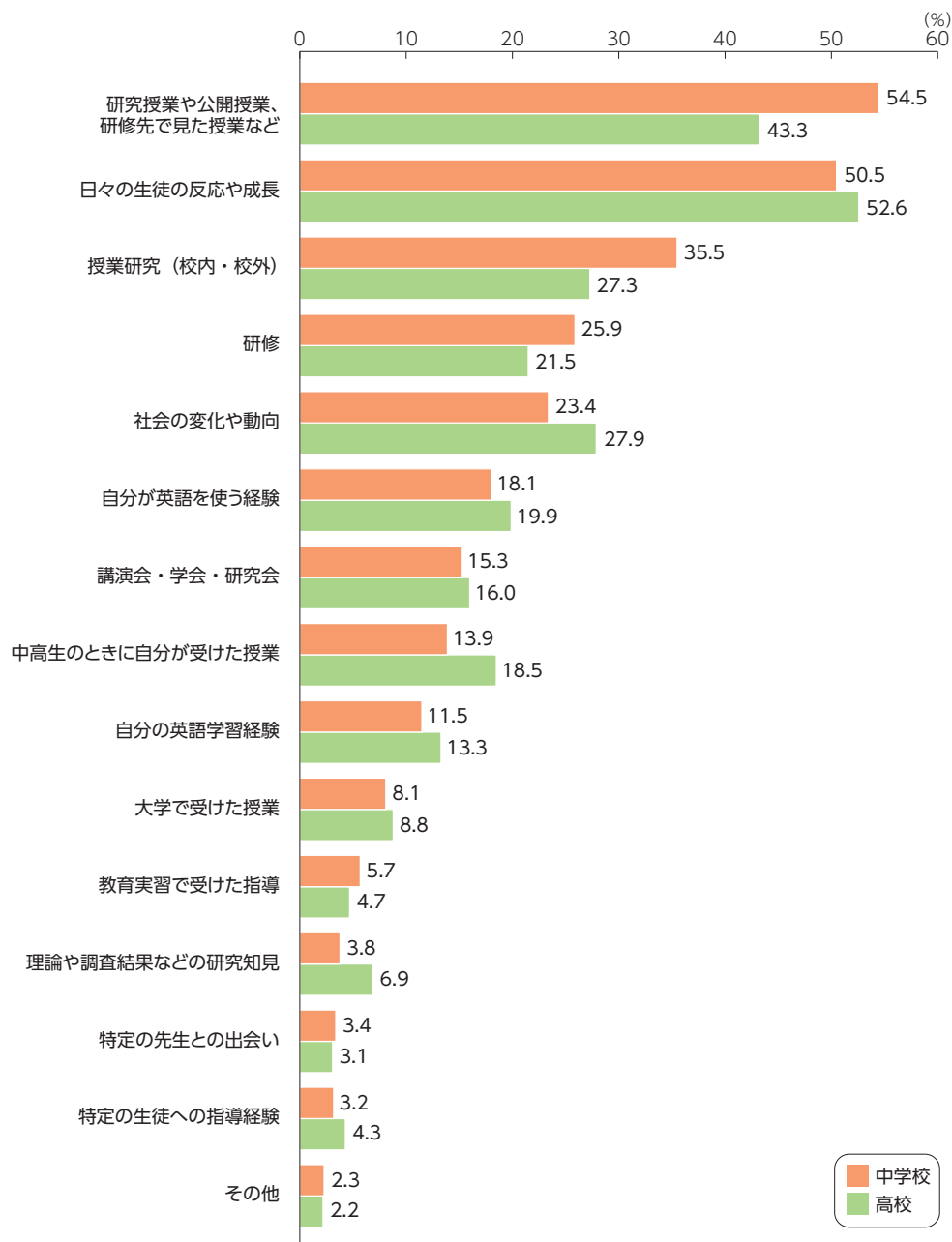
* 20項目中3つまで選択。

指導に影響を与えているものは、さまざまな研究授業や「日々の生徒の反応や成長」が高い。

指導に影響を与えているものは、具体的な授業を見て研究することや、生徒の反応や成長などである。一方で、「大学で受けた授業」や「教育実習で受けた指導」などは低い。

Q 英語の指導をするにあたって、特に影響を与えているものを3つまで選んでください。

図2-5 指導に影響を与えているもの



* 15項目中3つまで選択。

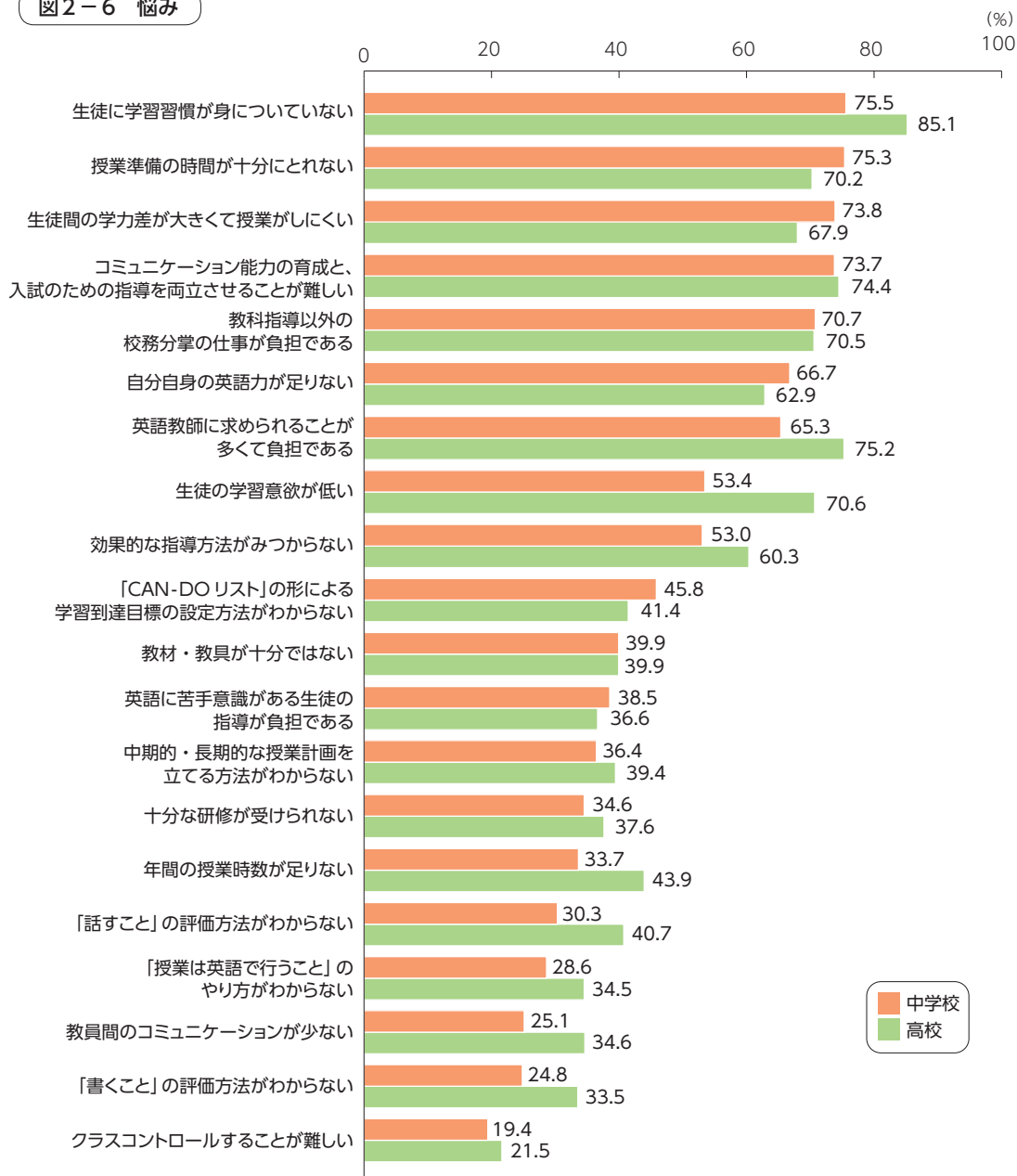
2. 指導に関する教員の意識

教員は、入試対応、自分自身の英語力の不足、指導方法など多くの悩みを抱えている。

悩みの上位には、英語だけではなくどの教科にも共通することがあがっているが、英語に特有な項目で見ると、中学校では、「コミュニケーション能力の育成と、入試のための指導を両立させることが難しい」、高校では、「英語教師に求められることが多くて負担である」「効果的な指導方法が見つからない」などが上位にあがっている。

Q 次のような悩みをどれくらい感じていますか。

図2-6 悩み



*「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

生徒の将来の英語使用イメージについて、中学校の2割以上、高校の3割以上の教員は「使わない」と回答。

中高教員の約9割が教えている生徒の将来の英語の必要性を感じている。しかし、実際の英語使用イメージについては、中学校の2割以上、高校の3割以上の教員が「英語を使うことはほとんどない」と回答。一方で、「いつもではないが仕事で英語を使うことがある」と回答した教員も中学校で4割以上、高校で3割以上いた。

Q

教えている生徒が大人になったとき、

- ①社会ではどれくらい英語を使う必要がある世の中になっていると思いますか。
- ②生徒自身はどれくらい英語を使っていると思いますか。

図2-7 社会での英語の必要性と生徒が英語を使うイメージ

